

What?

Why?



所長 山本の

# ワイズリレーインタビュー

第57回 有限会社神田葡萄園 代表取締役 熊谷 晃弘さんに聞きました!

一度止めた酒造りに再挑戦する6代目。三陸の潮風を食卓に運んでくれる“リアスワイン”の夢。

## Q 業務内容を教えてください。

熊谷 陸前高田市でブドウを栽培しながら、ワインの醸造と清涼飲料水の製造をしています。そのほか、県内農家さんの生産物で果汁の委託加工をしています。

## Q ワインが一番の主力商品でしょうか?

熊谷 今はまだ、昭和 45 年から製造している地サイダーの「マスカットサイダー」が売上の主になりますが、ワインのシェアも年々上がっている状況です。うちのワインは、潮風を浴びて育つブドウでつくるので、ミネラル感があって爽やかな味というのが特徴です。海産物との相性は抜群だと自負しています。

## Q ワインはいつ頃からつくられているのですか?

熊谷 明治時代にブドウ酒の製造で創業し、昭和 20 年代までいわゆるワインをつくっていましたが、一旦廃止し、平成 25 年からまた再開したという流れです。

## Q 明治の創業ということですが、歴史を教えてください。

熊谷 初代の熊谷福松はもともと気仙大工で、明治 20 年代に遠方に出稼ぎに行き家を立てる仕事をしていました。晩年の頃に出稼ぎ先からリンゴやナシ、ブドウの苗木をいただいて、陸前高田市に植えたのがルーツです。果物がなり始めたのが明治 30 年代で、やがて生売りだけではさばききれない量となり、それを使ってブドウ酒をつくるために東北でいち早くブドウ酒の製造許可を取り、創業したのが明治 38 年です。その後は、2 代目と一緒にブドウ酒をつくりながら、ブドウジュースも製造しています。ブドウジュースのニーズが高まってきた昭和 28 年にブドウ酒の製造免許を廃止し、酒造りを一度やめました。その後は、果樹園業や清涼飲料水の製造、昭和 40 年代から大手飲料メーカーに対抗するために「マスカットサイダー」の製造を始めました。現在は製造を終了していますが、平成に入ってからはジャムもつくっていました。「神田」という社名は地域の字名が由来です。創業当時からずっと変わらず、今に至ります。



熊谷さんが個人的に好きなワインは、リアス式海岸の語源になっているスペインのガリシア州リアス・バイシャスでつくられているアルバリーニョの白♪



## Q ご自身の役員就任までの経緯を教えてください。

熊谷 平成 20 年に入社し、2年から3年ほど現場の経験を積んだ後、社長の父のもとで専務に就きました。その後も現場仕事をさせてもらい、もう一度ワインをつくり始めようと動き出した平成 25 年のタイミングで代わりをしました。

## Q ワインをつくりたいと思ったのはなぜですか?

熊谷 僕です。前職が飲食店で、ワインが身近にあったのと、家業で家にブドウがあるので、ワインをつくりたいと思い始めたのが理由です。そして、ここは海産物が豊富にとれる町なので、ワインをつくれれば今までになかったものを発信できるのではないかと考えた経緯もあります。事業の歴史をつないでいく時に、何か文化になるようなものをつくりたくて、ワインであればそれが実現できるのではと思いました。

## Q ワインづくりはどのように勉強されたのですか?

熊谷 志してからは研修をさせてもらったり、コンサルタントの方に指導してもらったり、今も経験を積みさせてもらいながら勉強しています。ワインは僕自身がつくりたかったこともあり、当初から誰かを呼ぶことはあまり考えませんでした。わりと華やかに思われるかもしれませんが、仕事自体は結構地味ですね。

## Q 普段は、具体的にどのような仕事をされていますか?

熊谷 製品の製造は、今はもうスタッフに任せており、どちらかというと経営の仕事に入っています。た

Monthly  
Person



## 有限会社 神田葡萄園

代表取締役

熊谷 晃弘(くまがい・あきひろ)

昭和58年、陸前高田市生まれ。東京の専門学校でビジネスを学んだ後、飲食店に就職。25歳でUターンし、平成25年に6代目就任。休日は家族でドライブやキャンプへ。ワインに合うオススメのキャンプ飯はアヒージョ。魚を捌くのが好きで、魚一匹を買って、カルパッチョにすることも。



三陸の魚介を引き立てるワイン



「あの時の思い出の味」シリーズ

株式会社 divan 代表取締役社長 菊池 拓さんからのご紹介



だ、もともと畑に行ったり、新しいものを開発したりするのが好きなので、事業継承が落ち着いたらまた現場に戻っていきなと思っています。

### Q 他社と違うセールスポイントはありますか？

熊谷 小規模でワインとジュース、炭酸飲料まで網羅し、なおかつ委託加工まで受け入れている幅広さです。県内はもちろん全国的にも珍しいと思います。幅広い分、大変なこともあるため、震災以降は自社の商品をコンパクトにしたり、瓶の回収をやめるなどして、なるべく負担がかからないようなオペレーションで製造できるように切り替えています。

### Q この仕事の魅力はどのようなところに感じますか？

熊谷 例えば、ブドウでも毎年同じものはつくれないところ。ワインの味わいも違って来るため、良くも悪くもそこに魅力を感じます。会社の代表としての魅力は、ざっくり言えば自分の思うようにできるところですが、その分、やはり苦勞も味わうので、いろいろな経験ができる場所です。

### Q 会社としての目標を教えてくださいませんか？

熊谷 スタッフが気持ちよく働ける会社でありたいと思います。そして売上を上げていくことももちろんですが、経営者としての力をつけながら、会社を次世代につなぐために強くしていきたいです。そのためには、いいものをつくり続けることが一番だと思うので、地に足をつけて土台づくりをしている最中です。

### Q 個人としての目標をお聞かせください。

熊谷 醸造家の一面もあるので、やはり美味しいワインをつくりたいと思いますが、三陸にワインの文化を根付かせるのが僕の目標です。飲み手を増やすためには、認知してもらえるようにコンクールへの出品も思い描いています。出品するためには生産量を増やす必要があるため、地主さんと交渉して畑を増やしているところ。実がなるまで3年はかかるため、

3年後、5年後を見据えて動いていっています。

### Q 三陸にワイン文化を根付かせるためにされていることはありますか？

熊谷 飲んでもらうための機会を増やすためのイベントを定期的に行ったり、この地域に人を呼ぶ仕組みやツールづくりを漁師さんや観光分野などの方々と組んで少しずつ仕掛けていっているところです。例えば、三鉄列車を貸し切ったワイン会や地元の飲食店を貸し切ったワインと料理のペアリングを楽しんでいただけるイベントなどがあります。来てもらって楽しむのと、もともとここに住んでいる方に向けてのものを企画しています。「三陸で」と言っていますが、今はどちらかと言えば陸前高田市や隣の大船渡市の規模のため、幅を広げて県北までを三陸のひと括りとして認知を広めたいなと思っています。

### Q 仕事をするうえで大切にしていることは何ですか？

熊谷 スタッフに気持ちよく働いてもらうことです。スタッフあつての会社で、私一人や家族だけではこの商売をやっていけないので、みんなに気持ちよく働いてもらうための工夫は大事にしているつもりです。例えば、月1回、みんなでランチを食べて午後ミーティングをしたり、新商品や企画の提案を一人1案出してもらったり、積極的に新商品もプレゼントしています。

### Q 最後に好きなタイプの芸能人を教えてください！

熊谷 朝ドラに出っていますが、昔から深津絵里さんが好きです。雰囲気やファッション、ドラマでの存在感や顔立ちをひっくるめて素敵だなと思いますね。

◎ 本日はお忙しいところありがとうございました。

有限会社 神田葡萄園

陸前高田市米崎町字神田 33 Tel : 0192-55-2222

<http://0192-55-2222.jp>

